

【ねがいましては】

第3号

昭和63年3月22日

発行 共和珠算塾

人の性格、それは、おそらく1億人いれば1億種類でしょう。ですから、子供達も当然同じことを言っても受け取り方も違えば、表現のしかたも違います。

私も、教室内で非常に興味深くそれを感じとっております。

明るい子・めだたぬ子・わんぱくな子・ひっこみ思案の子・めだちたがり屋・はずかしがり屋・根気がある・あきっぱい・おしゃべり・無口・・・などなど、きりがありません。が、その性格づくりも「基本」は「親」がにぎっています。

子供の心の安定は、性格を良い方向へ向ける第一要因です。そのひとつに親子の会話があります。ちょっとした、おかあさんの一言が、子供の心を安定させたり、不安にもしたりします。

ある日、お子さんが体育の徒競走で「ビリ」を取ってきました。

「おかあさん、きょうね、体育のとき、ときょうそうでビリになっちゃった。」

どのようにお答えになりますか、少し考えてみてください。

○安定する

「～ちゃんも、やっぱりおかあさんの子ね、おかあさんの小さい時とそっくりだわ」

「そう、残念だったわね、でも～ちゃんがいたから一等の子がいられたの、気にしない気にしない、でも今度のはがんばってビリから2番目ねらってね」

子供の心もあたたかくなるでしょう。「おかあさん、何かお手伝いしようか」などという言葉もはねかえってくるかもしれません。

○不安定

「おかあさん、いま忙しいの、あとでね」

「あらそう、それより早く宿題をきなさい、じゃないとテストもビリよ」

おそらく、お子さんはそのあと言葉を返すことができないかもしれません。

わかっちゃいるけどという方も多いと思いますが、でも心がけだけは持ちたいと、私自身反省し、日ごろ言い聞かせております。

4月の予定

3月29日（火）～4月2日（土）まで、春休み

3月29日（火）遠足・・・上野動物園・・・受付中

4月 5日（火）授業開始・・・検定試験発表

☆只今、新学期生徒募集中です。お友だちや、ご兄弟に習ってみたい子がおりましたら、ご紹介ください。